

亀さん通信

まだまだ暑い日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか？

亀のように歩みは遅くとも、『お金力』をしっかりと・確実に身につけていただく【亀さん通信】第 155 号の発信！

「おじさん、〇×株を買いなよ！」



中堅企業が中心の東京証券取引所第 2 部での**個人投資家の取引が活発**なようです。今年 2 月には株価指数が史上最高値を約 11 年ぶりに更新し、その後も上昇を継続中。一方、米国の株式市場では、**株価暴落の前兆とされるシグナル**が今年に入って何度も点灯しています。一体市場では何が起きているのでしょうか？

厳しい上場基準をクリアした東証 1 部の企業は知名度が高いのに対し、東証 2 部は**比較的規模の小さい内需系の企業**が多く、機関投資家（金融機関など大量の資金を運用する大口投資家）の注目も集まりにくい面があります。ですから必然的に 2 部での取引は**国内の個人投資家が過半**を占めています。海外の機関投資家が売買の主軸で世界情勢を敏感に映し出す 1 部と比べ、2 部は落ち着いて投資ができるということでしょう。とはいえ、余りにも看過できない現象が起きています。1 部はこのところ値を崩しているのに関わらず、2 部は高値を維持しているのです。2 部で取引している人はさぞ**笑いが止まらない**でしょうが、これは何を意味するのでしょうか？

日本よりも堅調な米国市場では、前述のシグナルが点灯。これは「**ヒンデンブルグ・オーメン**」と呼ばれる株価を予測するための分析指標のひとつ。実際に 1985 年以降、米国市場が暴落した際には、いずれの場合もこのシグナルが点灯しました。ちなみに、その名称は 1937 年に起きたドイツの飛行船ヒンデンブルグ号の爆発・炎上事故にちなんで名付けられたもの。同シグナルは絶対ではありませんが、米国市場が暴落すれば**日本市場への影響は必至**ですが…。

一瞬で巨万の富を奪い去った過去の暴落にはある共通項があります。それは世界を揺るがした出来事でしょうか、それとも？その答えは、暴落前の段階では**個人投資家が儲かっていた**ということ。個人投資家とは言葉を換えれば、素人の方々です。考えてみてください。素人でも簡単に儲かる相場が長続きするのでしょうか？基本的に**素人は負ける**のです。それなのに儲かっているという状況は正常とはいえません。東証 2 部では素人の方々が儲かり、米国ではヒンデンブルグ・オーメンが点灯。何とも**不吉な感じ**がしますが…。

あるエピソードをご紹介します。「**ジョセフ・P・ケネディ**」なる人物をご存知でしょうか。ほとんどの人が知らないと思いますが、実は第 35 代米国大統領であるジョン・F・ケネディの父親です。彼は株式投資などで莫大な富を築き、息子たちの政界進出を強力にバックアップしました。そんな彼が 1928 年冬のある日、オフィスに向かう途中で靴磨きの少年に靴を磨いてもらっている時、少年が言いました。「おじさん、〇×株を買いなよ」と。それを聞いてケネディは「こんな少年までが株の話をするようになったら、**そろそろ危ない**…」と考え、すべての株式を売り払いました。そして翌年の 1929 年に起こったのが世界大恐慌の引き金となった**ウォール街の大暴落**です…。

この話はケネディの作り話とされていますが、実際に彼が難を逃れたことは確かであり、**相場の天井を暗示**する非常に示唆に富むエピソードです。主婦や学生などが市場に新規参入する、雑誌やテレビなどのメディアが相場を盛り立てる、つまり**素人の方々が大量に市場に入ってきたら相場はそろそろ終わり**。とはいえ、欲に魅入られた人々は残念ながら気づけないのですが…。上がり続ける相場など存在しません。そして**歴史は繰り返す**。それが人の世です。えっ、何ですって？この先暴落が起きるのかって？ズバリお答えしましょう。私にはわかりません。すべては相場が決めることです！（笑）

セミの声が切なく聞える今日この頃…

（株）亀山保険事務所 亀山裕弘（シ北0） 1 級ファイナンシャル・プランニング 技能士 0575-28-2768 info@kameyama-hoken.com